

KIRIN



よろこびが
つなぐ世界へ

Joy brings us together

キリングループ[°]

2020年12月期 第3四半期決算

2020年11月6日
キリンホールディングス株式会社

3Q業績サマリー

- 連結売上収益は-5.4%の減収、連結事業利益は-12.2%の減益と、新型コロナウイルスの影響を受けつつも最小限の影響に留めた。
- 税引き前四半期利益は、新型コロナウイルス影響を受け持分法投資利益などが減少した一方、前年のライオン飲料事業の減損損失の反動により48.7%の増益となった。
- 親会社の所有者四半期利益は、116.5%の増益となった。

業績予想修正

- 3Qまでの進捗を踏まえ、通期計画を上方修正。
- 修正幅は、従来予想に対し連結売上収益+40億円、連結事業利益+100億円。
- これにより親会社の所有者当期利益は、従来予想645億円から720億円に増額。

売上収益、主要な段階利益および平準化EPSの減少幅は、上半期と比較し改善。

(億円)	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
売上収益	13,597	14,378	-782	-5.4%
事業利益 ※1	1,303	1,484	-182	-12.2%
税引前四半期利益	1,152	775	377	48.7%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 ※2	718	331	386	116.5%

定量目標

	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
平準化EPS ※3	106円	116円	-10円	-8.6%

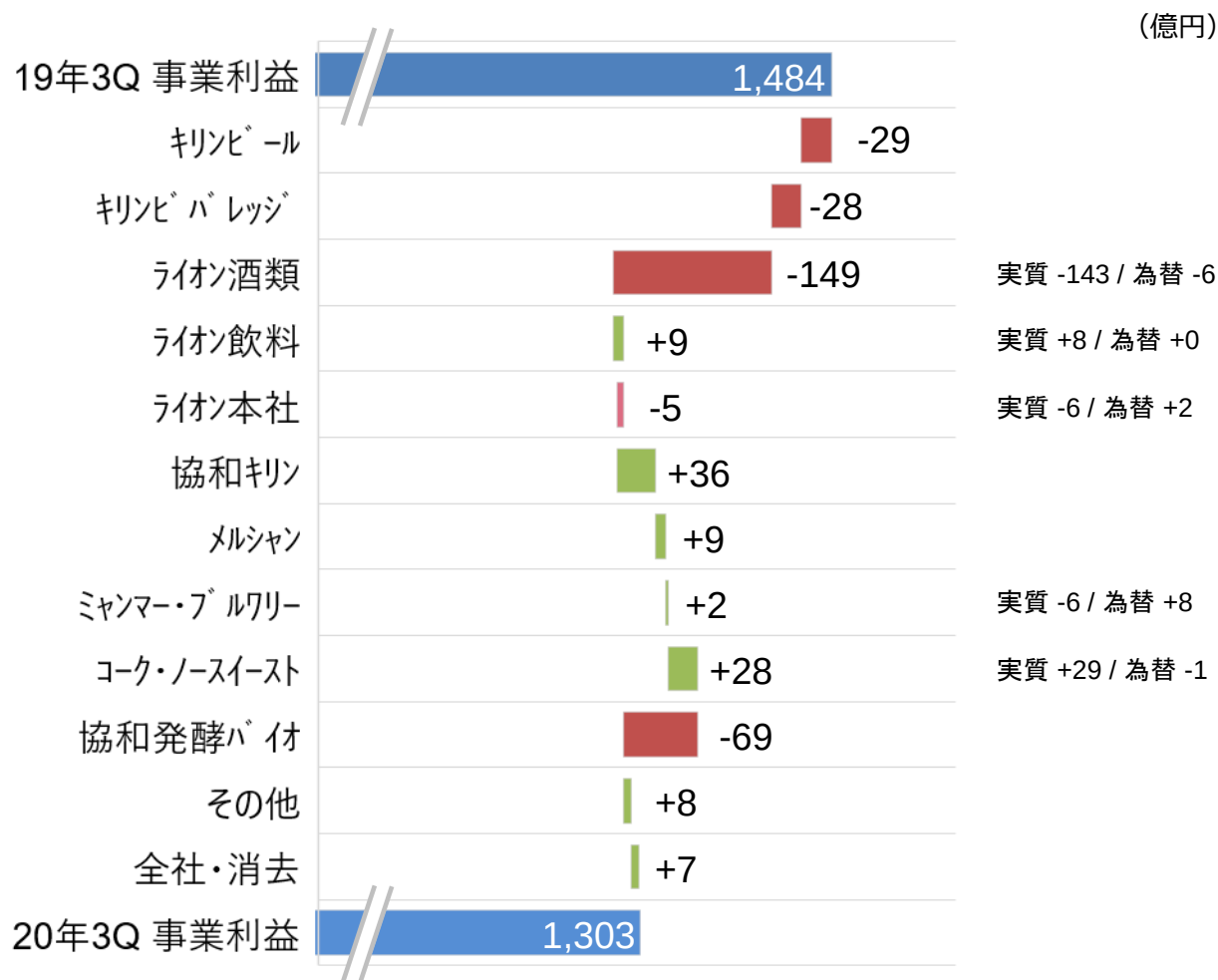
※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※2 2019年度期末に会計方針を変更したことに伴い、2019年度第3四半期の財務数値を遡及修正。

※3 明細はp.18参照。

2020年 3Q実績：連結事業利益 事業会社別増減

引き続き新型コロナの影響を受けるも、2Qをボトムとして事業利益は改善



補足

キリンビール

▶ ビールの販売数量減による限界利益減少

キリンビバレッジ

▶ 販売数量減に加え、チャネル構成比の変化による商品・容器構成差異等の悪化

ライオン酒類

▶ 業務用チャネルの数量減及び単価ミックス悪化

ライオン飲料

▶ 乳飲料の利益率改善やコスト削減

協和キリン

▶ Crys vitaなどの伸長、R&D費用の減少

ミャンマー・ブルワリー

▶ 販売数量の減少と商品構成の悪化に対し、為替（チャット高）による影響

コーク・ノースイースト

▶ PMIによる効率化、コストコントロール

協和発酵バイオ

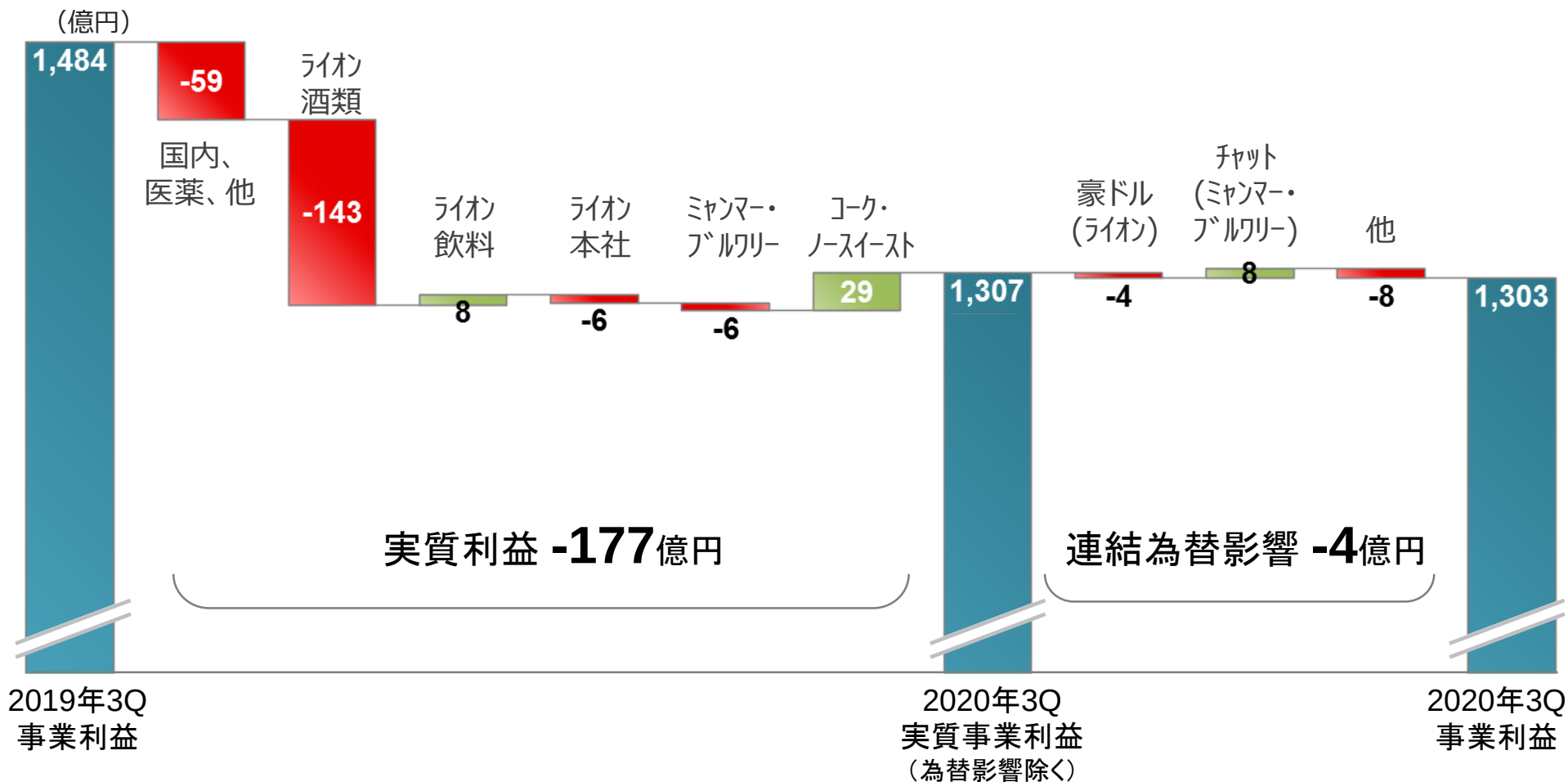
▶ 製造量減少に伴う粗利減

※ 「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。

2020年 3Q実績：連結為替影響

為替影響を除く実質事業利益は対前年 -177億円の減少 (-11.9%)

➤ 円高・豪ドル安、円安・チャット高を受け、連結為替影響は約 -4億円。



3Qまでの進捗を踏まえ、通期業績予想を上方修正

連結事業利益1,400億円から+100億円の上方修正

3Q累計 従来計画に対する事業利益 進捗率 (%)

グループ連結  93%

麒麟ビール  87%

麒麟ビバレッジ  92%

ライオン酒類  64%

コーク・ノースイースト  110%

連結事業利益予想

20年2Q修正予想

1,400億円

20年3Q修正予想

1,500億円

主な修正理由

麒麟ビール
+20億円

ビール類の下振れをRTDなどでカバー、
原材料費、その他費用が上振れ

麒麟ビバレッジ
+20億円

3Q時点での販売数量が計画超過、
固定費削減などコスト削減も想定以上

ライオン酒類
+21億円

飲食店営業の規制緩和のスピードが想
定を上回り、業務用チャネルが回復

コーク・ノースイースト
+20億円

販売数量、販管費抑制が3Q計画を上
回る。

2020年度 業績予想修正

3Q時点での進捗を踏まえ、2Qで修正した通期予想を上方修正

■ 通期業績予想

※従来予想は2020年度12月期2Q決算発表で修正した予想値

(億円)	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減		20年通期 (従来予想)	修正額		主な修正額
				%			%	
売上収益	18,280	19,413	-1,133	-5.8%	18,240	+40	+0.2%	麒麟ビール -25 / 麒麟ビバレッジ +45/ ライオン +34 / その他 -14
事業利益	1,500	1,908	-408	-21.4%	1,400	+100	+7.1%	麒麟ビール +20 / 麒麟ビバレッジ +20 / ライオン +21 / その他 +39
税引前利益	1,285	1,168	+117	+10.0%	1,185	+100	+8.4%	
親会社の所有者 当期利益	720	596	+124	+20.7%	645	+75	+11.6%	

「+」は従来予想に対して益方向、「-」は損方向への修正を指す

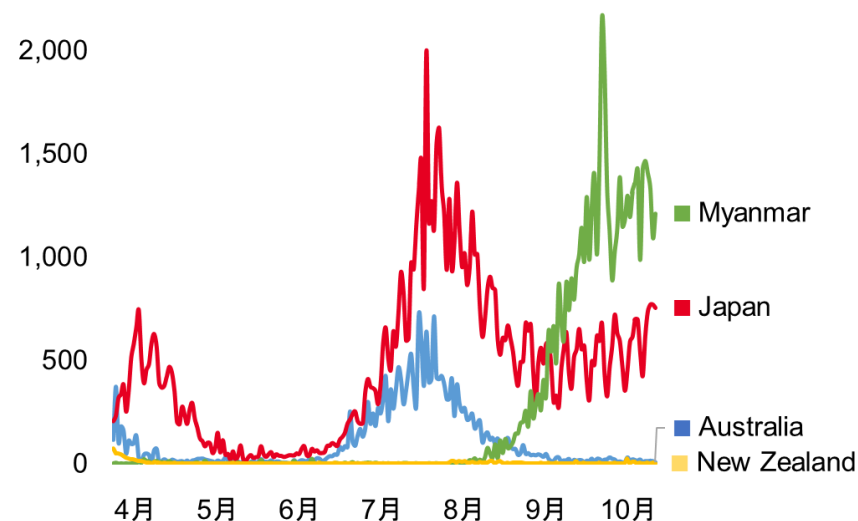
■ 定量目標 / 通期予想配当金 (一株当たり)

(億円)	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	20年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	5.9%	5.2%		5.4%	
平準化EPS	120円	158円	-38円	111円	+9円
年間配当金	65円	64円	+1円	65円	—

7月以降の新型コロナの影響

- ▶ 日本の新規感染者数は、7月をピークに大きく増加したが、その後は落ち着きを見せつつある。7月後半にGo to Travel、10月にGo to Eatキャンペーンが開始されるなど、市場回復に対するモメンタムは上向きつつある。一方、依然として飲食店利用者は従来の水準に戻っておらず、在宅勤務による飲料のオフィス需要も回復が見られないなど厳しい状況が続く。
- ▶ 豪州では、7月にヴィクトリア州で再びロックダウンになるなど、州によっては高い警戒レベルが続くが、9月以降豪州・ニュージーランドの新規感染者数は大きく減少した。飲食店は徐々に営業が再開され、緩やかではあるが回復基調にある。
- ▶ ミャンマーは8月下旬以降に感染が拡大。飲食店の営業が規制されるなど業務用チャネルの販売に影響。
- ▶ 医薬事業においては、国内外における医療機関への販売活動制限などの影響が継続するも、影響は限定的。
- ▶ 通期コスト削減目標250億円に対しては、各事業会社、順調に進捗。3Q時点では上振れ基調。

新規感染者数の推移（人/日）



WHO

環境変化を見越した戦略が奏功、継続して市場をアウトパフォーム

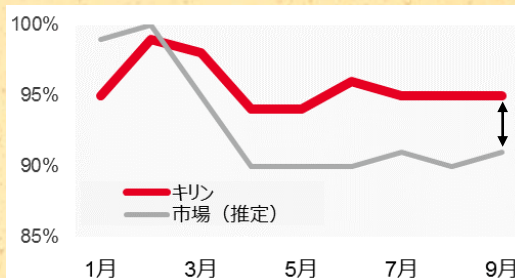
本麒麟は発売3年目も前年比41%増と勢い止まらず（1-9月累計）

ビール類 3Q販売数量 **市場 $\triangle 9\%$** **▶ キリン $\triangle 5\%$**
(推定)



3月以降市場をリード

ビール類計 販売数量前年比推移（累月）

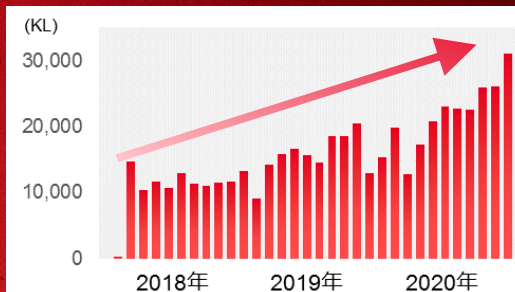


10月販売数量 前年増減 速報値

	市場 (推定)	麒麟 ビール
ビール類計	$\triangle 8\%$	$\triangle 0\%$
ビール	+1~2%	+17%
発泡酒	+9%	+9%
新ジャンル	$\triangle 22\%$	$\triangle 19\%$

本麒麟 絶好調

本麒麟 販売数量 経年推移（単月・実数）



- ▶ 10月実績も市場に対しアウトパフォーム。
- ▶ 酒税改正の追い風と、「一番搾り糖質ゼロ」の販売好調を受けビールは+17%で着地。

日本初^{※1}糖質ゼロ^{※2}ビール。麒麟ビールの高い技術力で5年かけて生み出した画期的商品

健康志向×酒税改正という環境変化にも適応した「一番搾り 糖質ゼロ」を発売

ビールに求められる価値

ビールのおいしさ

「一番搾り製法」
のおいしさ

環境変化

健康志向

「糖質オフ・ゼロ」
ニーズ

酒税改正

ビール
再成長の機会

高い技術力と味覚に高い評価

発売^{※3}から約1カ月を待たずに
年間販売目標の7割強を達成



※1 ビールで糖質ゼロを実現した国内で初めての商品(Mintel GNPDを用いた当社調べ)

※2 100ml当たり糖質0.5g未満のものに表示可能(食品表示基準による)

※3 10月6日発売

拡大するRTDカテゴリーでの新たな挑戦、新たな価値創造への投資を継続

高付加価値RTD「麴レモンサワー」に続き、氷結[®]ブランドから初の「無糖」商品発売

当社RTD史上初「麴」を使用

麴^{こうじ}レモンサワー

従来の
当社RTD商品に対し
実勢価格約1割増

発売^{*}から約2週間で
年間販売目標達成

※10月13日発売



氷結[®] 無糖

糖類・甘味料
一切不使用の新商品

10月20日発売

仙台工場にRTD製造設備を新設

～2022年2月 稼働予定～

- RTDカテゴリー拡大による将来のキャパシティ不足を解消。
- 投資額 約75億円に対し、年間約10億円以上のコスト削減を見込む。
- 他エリアからの長距離転送削減によりCO₂排出量を年間約3,000t削減。

※効果はいずれも2022年以降の計画値

キリンビバレッジ / ライオン 3Qアップデート・4Qでの取り組み

キリンビバレッジ



健康戦略新商品の販売好調

業務用の回復によりミックスが改善

無糖領域新商品 「生茶ほうじ煎茶」

プラズマ乳酸菌入り 商品計 前年比2倍以上

(1-9月販売数量)

過去3年の新商品
の中で最速で
2,000万本を突破



7-9月の販売数量は計画を上回る

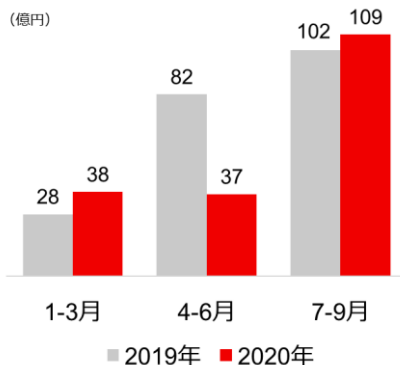
ライオン豪州/ニュージーランド
対2019年度 販売数量増減実績・予想

	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
対前年	対前年	対前年	対前年	予想
家庭用 チャンネル	+16%	-3%	+6%	-2% ~ +2%
業務用 チャンネル	-11%	-86%	-25%	-5% ~ -30%

(参考) 2Q決算発表時点での7-9月予想: 家庭用チャンネル +3% ~ +5%、
業務用チャンネル -30% ~ -60%

事業利益の確保も順調に進捗

自社新商品、Hard Seltzer共に好調



4 - 6月で落ち込んだ
事業利益を、徹底した
コストコントロールにより
3Qで改善。



Byron Bay Lager
(2019年9月発売)



James Squire
Broken Shackles
(2020年3月発売)



XXXX Dry
(2020年3月発売)



White Claw
(2020年10月発売)



通期計画に対し順調に進捗

グローバル戦略3品 順調

グローバル戦略品 通期計画に対する進捗率



75%



85%



65%

重要なパイプラインに進捗

- ▶ 欧州でKRN23(Crysvita)の承認適応を成人XLHに拡大。韓国でも販売承認取得（9月）。
- ▶ パーキンソン病を対象としたフェーズ2b試験で、KW-6356の有効性を確認（10月）。今後、学会でデータを発表予定。

再生計画を進めつつ、将来に向け投資

防府工場の製造量が計画に対しやや未達

- ▶ 防府工場の定期メンテナンスに合わせて、追加の製造設備改善を実施。
- ▶ そのために、高収益品の製造ライン停止期間を調整。
- ▶ 高収益品の安定製造や生産性向上に繋げる。

タイにHMO製造設備新設へ

- ▶ タイの既存工場に、HMO（ヒトミルクオリゴ）糖製造設備の新設計画を発表（2022年竣工予定）。
- ▶ 「事業再生」フェーズ完了後、速やかに「高収益事業に向けた体質改善」フェーズに移行すべく投資を決定。
- ▶ 投資額は約70億円。
- ▶ ROICは投資5年後で二桁%を見込む。



11月より 機能性表示食品 iMUSE商品を発売。積極的な広告投資を予定

年内3,000GRPの広告投入を予定。ファンケルからもシナジー商品を12月発売予定



11月下旬
機能性表示食品として上市



健康な人の免疫機能
の維持をサポート
【プラズマ乳酸菌の研究報告】

※
世界初

pDCに働きかける乳酸菌
※ヒトでpDCに働きかけることが世界で初めて
論文報告された乳酸菌(PubMed及び医学中央
雑誌WEBの掲載情報に基づく)

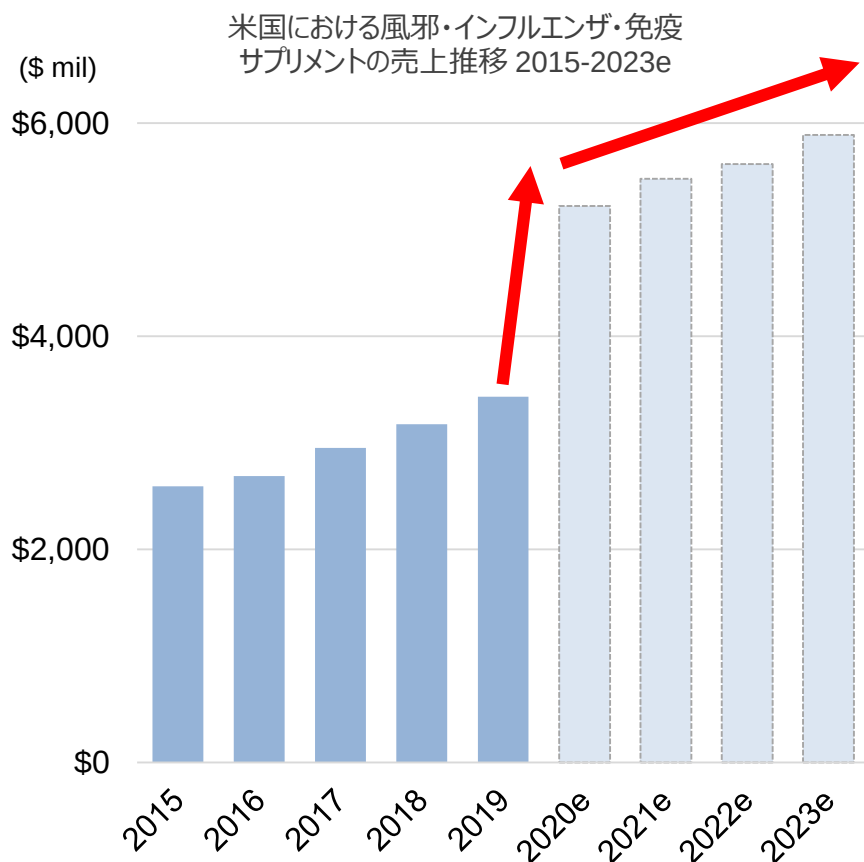
FANCL

- ▶ ファンケルから12月に
機能性表示食品の新商品
「免疫サポート」発売予定。
- ▶ キリンによる機能性表示食品
届出受理から極めて短期間
で発売へ。



米国での免疫に関するサプリメント市場は2020年急拡大中

協和発酵バイオの米国子会社Kyowa Hakko USAを通じてBtoBを展開



Source: Nutrition Business Journal (\$mil, consumer sales)



KYOWA HAKKO U.S.A., INC.

- ▶ 米国でシチコリンなどを発売するKyowa Hakko USAの重点活動にプラズマ乳酸菌を追加。
- ▶ 米国サプリメントメーカーからプラズマ乳酸菌の引き合いが急増、3品は既に上市。
- ▶ その他「免疫維持」という社会課題に取り組む各国メーカーと交渉進行中。

Enviromedica
Mar 2020Nootropics Depot
Jun 2020Neurohacker
Sept 2020

社会的価値・経済的価値が両立するCSV戦略を加速

CSV経営の深化を通じて、ESGの強化に繋げる

Environment

FSC®認証紙100%※¹達成

国内飲料会社※²で紙製容器包装に使用する全ての紙のFSC®認証紙への100%切り替えが完了。

※¹キリンビール株式会社、キリンビレッジ株式会社、メルシャン株式会社
※²限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品を除く

気候変動対応 順調に進捗

RE100（2020年加盟予定）

SBT 1.5°C対応（2020年承認取得予定）

環境報告書2020を発行

新たに策定した長期戦略「キリングroup環境ビジョン2050」やTCFDシナリオ分析の進捗などアップデート。



Social

製造・物流現場の従業員に「プラズマ乳酸菌」を支給

国内事業の継続のために、出社による業務が必須となる製造・物流現場の従業員に対し、体調管理を目的として「プラズマ乳酸菌」を継続支給。

副業解禁による多様性拡大

7月より、働きがい改革の一環として、知見を広め、本業におけるイノベーションにつながることを前提とした副業を認める制度を解禁※。

更なる多様性の強化を目指す。

※一部の国内グループ会社が対象

Governance

政策保有株式の縮減 中計目標を2年目で達成

2019年 – 2021年の3か年計画として掲げていた、政策保有株式の更なる縮減方針につき、目標の500億円を前倒しで達成。

政策保有株式売却金額

2019年 **359億円**

2020年 **157億円**

計 **516億円**

計 33社の株式を売却

（全売却26社、部分売却7社）

資料編

Joy brings us together

2020年 3Q実績：平準化EPS 明細

平準化EPS

(億円)		20年3Q実績	19年3Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益 [※]	①	718	331
非継続事業からの四半期利益	②	-	-
税金等調整後その他営業収益／費用等 [※]	③	179	690
平準化 四半期利益	④ = (① - ②) + ③	896	1,021
期中平均株式数 (千株)	⑤	843,005	878,046
平準化EPS (円)	④ ÷ ⑤	106	116

※ 2019年度期末に会計方針を変更したことに伴い、2019年度第3四半期の財務数値を遡及修正。

2020年 3Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
連結 売上収益	13,597	14,378	-782	-5.4%
国内ビール・スピリッツ	4,792	5,107	-315	-6.2%
麒麟ビール	4,642	4,978	-336	-6.7%
その他・内部及びセグメント間取引消去	150	129	21	16.2%
国内飲料	1,906	2,150	-244	-11.4%
麒麟ビバレッジ	1,921	2,165	-244	-11.3%
セグメント間取引消去	-15	-15	-1	—
オセアニア総合飲料	2,057	2,151	-94	-4.4%
ライオン	2,057	2,151	-94	-4.4%
酒類	1,220	1,186	34	2.9%
飲料	837	965	-128	-13.3%
セグメント間取引消去	-0	-0	-0	—
医薬	2,336	2,247	89	4.0%
協和麒麟	2,340	2,255	85	3.8%
セグメント間取引消去	-4	-8	4	—
その他	2,506	2,724	-218	-8.0%
メルシャン	439	453	-13	-2.9%
ミャンマー・ブルフリー	242	242	-0	-0.2%
コーク・ノースイースト	988	1,003	-15	-1.5%
協和発酵バイオ	434	565	-131	-23.2%
その他・内部及びセグメント間取引消去	403	461	-58	-12.5%

通期業績予想修正：セグメント別 売上収益予想

(億円)	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%	20年通期 (従来予想)	修正額	%
連結 売上収益	18,280	19,413	-1,133	-5.8%	18,240	40	0.2%
国内ビール・スピリッツ	6,486	6,819	-333	-4.9%	6,497	-12	-0.2%
麒麟ビール	6,290	6,650	-360	-5.4%	6,315	-25	-0.4%
その他・内部及びセグメント間取引消去	196	169	27	16.0%	182	14	7.7%
国内飲料	2,542	2,868	-326	-11.4%	2,497	45	1.8%
麒麟ビバレッジ	2,558	2,888	-330	-11.4%	2,513	45	1.8%
セグメント間取引消去	-16	-20	4	—	-16	—	—
オセアニア総合飲料	2,795	2,997	-202	-6.7%	2,761	34	1.2%
ライオン	2,796	2,998	-202	-6.7%	2,762	34	1.2%
酒類	1,681	1,715	-34	-2.0%	1,648	34	2.1%
飲料	1,114	1,282	-168	-13.1%	1,114	—	—
セグメント間取引消去	-1	-0	-0	—	-1	—	—
医薬	3,121	3,049	72	2.4%	3,121	—	—
協和麒麟	3,130	3,058	72	2.3%	3,130	—	—
セグメント間取引消去	-9	-10	0	—	-9	—	—
その他	3,337	3,680	-344	-9.3%	3,364	-27	-0.8%
メルシャン	618	639	-21	-3.2%	619	-1	-0.2%
ミヤンマー・ブルワリー	290	326	-35	-10.8%	305	-14	-4.6%
コーク・ノースイースト※	1,284	1,326	-42	-3.1%	1,291	-7	-0.5%
協和発酵バイオ	590	749	-159	-21.2%	590	—	—
その他・内部及びセグメント間取引消去	554	642	-87	-13.6%	560	-5	-0.9%

※コーク・ノースイーストの予想レートを108円/米ドル⇒107円/米ドルに変更

2020年 3Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
連結 事業利益	1,303	1,484	-182	-12.2%
国内ビール・スピリッツ	632	655	-23	-3.5%
麒麟ビール	609	639	-29	-4.6%
その他	23	17	6	38.3%
国内飲料	184	212	-28	-13.3%
麒麟ビバレッジ	184	212	-28	-13.3%
オセアニア総合飲料	97	242	-145	-59.9%
ライオン	97	242	-145	-59.9%
酒類	140	289	-149	-51.6%
飲料	4	-4	9	—
本社	-47	-42	-5	—
医薬	502	466	36	7.7%
協和麒麟	502	466	36	7.7%
その他	198	226	-28	-12.6%
メルシャン	18	9	9	105.2%
ミャンマー・ブルフリー	107	106	2	1.5%
コーク・ノースイースト	66	38	28	73.4%
協和発酵バイオ	-36	33	-69	—
その他	42	41	2	3.9%
全社費用・セグメント間取引消去	-310	-318	7	—

通期業績予想修正：セグメント別 事業利益予想

(億円)	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%	20年通期 (従来予想)	修正額	%
連結 事業利益	1,500	1,908	-408	-21.4%	1,400	100	7.1%
国内ビール・スピリッツ	739	852	-113	-13.2%	716	23	3.2%
麒麟ビール	720	833	-113	-13.6%	700	20	2.9%
その他	19	18	1	5.2%	16	3	18.8%
国内飲料	220	264	-44	-16.5%	200	20	10.0%
麒麟ビバレッジ	220	264	-44	-16.5%	200	20	10.0%
オセアニア総合飲料	183	414	-231	-55.8%	162	21	13.0%
ライオン	183	414	-231	-55.8%	162	21	13.0%
酒類	239	451	-212	-47.0%	218	21	9.6%
飲料	3	16	-13	-83.8%	3	—	—
本社	-58	-53	-5	—	-58	—	—
医薬	570	554	16	2.9%	570	—	—
協和麒麟	570	554	16	2.9%	570	—	—
その他	248	270	-22	-8.3%	213	35	16.4%
メルシャン	33	22	11	52.3%	29	4	13.8%
ミャンマー・ブルワリー	113	129	-15	-12.0%	113	—	—
コーク・ノースイースト※	79	53	26	49.7%	60	20	33.3%
協和発酵バイオ	-20	23	-43	—	-20	—	—
その他	42	44	-2	-3.5%	31	11	35.5%
全社費用・セグメント間取引消去	-460	-446	-14	—	-461	1	—

※コーク・ノースイーストの予想レートを108円/米ドル⇒107円/米ドルに変更

2020年 3Q実績：麒麟ビール

(千KL)	20年3Q実績	19年3Q実績	増減
ビール類計	—	—	-5.0%
ビール	—	—	-25.0%
発泡酒	—	—	-4.0%
新ジャンル	—	—	8.6%
RTD	309	282	9.4%
ノンアルコール飲料	33	28	21.3%

*ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

(億円)	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
売上収益	4,642	4,978	-336	-6.7%
酒税売上収益	2,774	2,922	-148	-5.1%
事業利益	609	639	-29	-4.6%

19年3Q 事業利益 (億円)		639	主な内容
対前年 増減 (億円)	酒類等限界利益 減	-122	ビール類計 -95億 (ビール減 -103千kl、発泡酒減 -12千kl、新ジャンル増 50千kl) ビール類以外計 26億 (RTD増 27千kl、ノンアル増 6千kl、他) 品種構成差異等 -53億
	原材料費 増	-13	
	販売費 減	68	販売促進費減 70億、広告費増 -2億円 (計 450億→382億)
	その他費用 減	38	
計		-29	
20年3Q 事業利益		609	

補足

国内酒類市場

- ▶ 第3四半期累計でビール類市場は△9%と推定。
- ▶ 7月から8月にかけて新型コロナの感染者数が再拡大したこともあり、業務用チャネルは第2四半期に続いて大きく落ち込んだ。
- ▶ 新ジャンルは酒税改正前の9月に仮需が発生し対前年増。
- ▶ ビール、発泡酒は前年における消費増税前の仮需により、家庭用チャネルにおいても前年から減少。

販売数量

- ▶ 本麒麟の好調が継続し市場を上回って推移。

売上収益・事業利益

- ▶ ビールの販売数量減によって売上収益、限界利益が減少。
- ▶ 販売費は前年の消費増税前商戦における販促施策の裏返しや、主要ブランドのリニューアル時期の違いによって前年から減少。

今期より販促費の一部使途について、固定費から売上連動型の変動費へ組み替え。

2020年 3Q実績：キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		20年3Q実績	19年3Q実績	増減
カテゴリー別	紅茶	3,702	4,088	-9.4%
	日本茶	2,489	2,629	-5.3%
	コーヒードリンク	1,706	1,951	-12.5%
	果実・野菜飲料	1,783	1,883	-5.3%
	炭酸飲料	1,230	1,564	-21.4%
	健康・スポーツ飲料	872	927	-5.9%
	水	3,292	3,236	1.7%
	その他	1,329	1,508	-11.8%
容器別	缶	1,934	2,321	-16.7%
	大型PET	6,037	6,045	-0.1%
	小型PET	7,071	7,900	-10.5%
	その他	1,362	1,519	-10.3%
計		16,404	17,785	-7.8%

（億円）	20年3Q実績	19年3Q実績	増減	%
売上収益	1,921	2,165	-244	-11.3%
事業利益	184	212	-28	-13.3%

19年3Q 事業利益（億円）		212	主な内容
対前年 増減 （億円）	清涼飲料限界利益 減	-110	販売数量減 -1,381万ケース -67億 商品・容器構成差異等 -44億
	原材料費等 減	8	原料費減 7億、材料費減 8億、加工費増 -7億
	販売費 減	50	販売促進費減 23億、広告費減 26億（計270億 → 220億）
	その他費用 減	24	
	計	-28	
20年3Q 事業利益		184	

補足

清涼飲料市場

- ▶ 清涼飲料市場は、△7%で推移。
- ▶ 第2四半期から引き続き外出自粛、在宅勤務増加により主としてコンビニエンスストア、自動販売機の販売が低下。

販売数量

- ▶ 基盤ブランドである「午後の紅茶」、「生茶」は、いずれも外出自粛、在宅勤務増加により前年から減少。
- ▶ 健康志向の高まりを受け、プラズマ乳酸菌商品の販売数量は2倍以上に増加。

業績補足

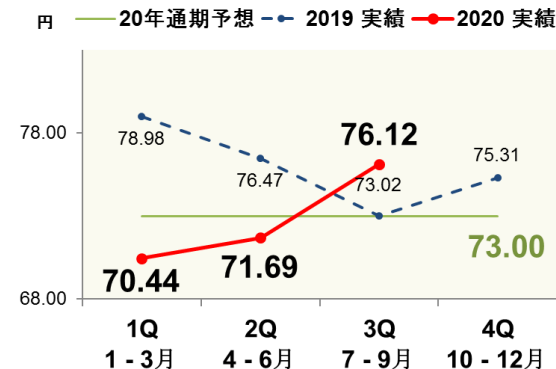
- ▶ 販売数量の減少に加えて、チャネル構成比の変化により「商品・容器構成差異等」が悪化し、限界利益減少。
- ▶ コストコントロールとして、販売促進費、広告費を最適化。

2020年 3Q実績：ライオン

	円ベース(億円)			
	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,057	2,151	-94	-4.4%
酒類	1,220	1,186	34	2.9%
飲料	837	965	-128	-13.3%
事業利益	97	242	-145	-59.9%
酒類	140	289	-149	-51.6%
飲料	4	-4	9	-
本社	-47	-42	-5	-

	豪ドルベース(million豪ドル)			
	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,828	2,826	2	0.1%
酒類	1,677	1,558	119	7.6%
飲料	1,151	1,268	-117	-9.2%
事業利益	133	317	-184	-58.2%
酒類	191	378	-187	-49.4%
飲料	5	-5	11	-
本社	-64	-55	-8	-

AUD (オーストラリア・ドル) *3か月平均



ライオン社は、IFRS会計上3か月毎の平均レートを積み上げる。

	酒類	飲料
酒類・飲料 販売数量増減 *	12.2%	-2.5%

事業利益増減 (百万豪ドル)	2019年3Q 実績	378	-5
	豪州・NZ 数量	-30	-3
	その他	-180	14
	海外クラフト、他**	23	-
	2020年3Q 実績	191	5

* 酒類の販売数量増減は豪州・NZ+海外クラフト他の合計

** 海外クラフト、他 には数量増減影響とその他の影響のネット額

販売数量（酒類）

- ▶ 豪州ではコンテンポラリーが増加傾向。海外クラフトは家庭用消費増加により数量増。
- ▶ 海外クラフト他を除く、豪州 + NZの販売数量は前年比-3.9%。

補足

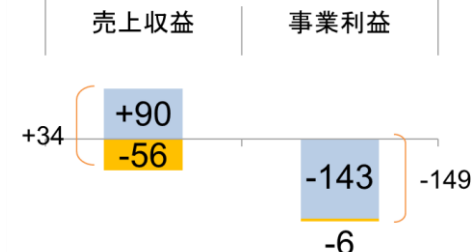
ライオン酒類

- ▶ 売上収益は、豪州・NZの販売数量減を、米国New Belgium Brewing連結化影響が上回り増収。
- ▶ 2Qに引き続き業務用チャネルの販売減少など影響を受けたが、一部地域の飲食店営業規制の緩和などにより7-9月の事業利益は前年比△21%となり、4-6月の△93%から大幅に改善した。

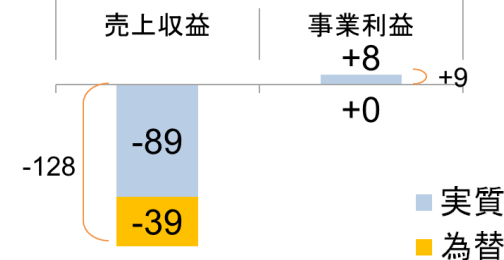
ライオン飲料

- ▶ 昨年のチーズ事業売却の影響により減収。事業利益は、乳飲料の利益率改善やコスト削減により増益。
- ▶ 飲料事業の売却については、FIRB承認の見通しが立たず、8月末に蒙牛社との契約を解除。他企業への売却を含めた最適な選択肢を継続検討中。

連結為替影響 ライオン酒類 (億円)



連結為替影響 ライオン飲料 (億円)



■ 実質
■ 為替

2020年 3Q実績：協和キリン

(億円)	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,336	2,247	89	4.0%
協和キリン	2,340	2,255	85	3.8%
セグメント間取引消去	-4	-8	4	—
事業利益	502	466	36	7.7%
協和キリン	502	466	36	7.7%

補足

売上収益

- ▶ 日本において薬価基準引下げや、腎性貧血治療剤「ネスプ」から、オーソライズドジェネリックである「ネスプAG」への切り替えが進んだことに加え、花粉飛散量の減少や新型コロナウイルス感染拡大による受診抑制等の影響を受けた「パタノール」や「アレロック」の減収等により、国内は減収。
- ▶ 一方、北米及びEMEAにおいて「Crysvita」や「Nourianz」などのグローバル戦略品が順調に伸長し、また、アジアにおいても主力製品「レグパラ」が中国を中心に好調に推移した結果、海外の増収が国内の減収をカバーし全体で増収。

事業利益

- ▶ 販売費及び一般管理費が増加したものの、売上収益の増収による売上総利益の増加により、増益となった。

製品別売上収益

(単位は億円、単位未満四捨五入)

主要製品名 (国内)	2020年 3Q実績	2019年 3Q実績	前年比	2020年 通期予想	進捗率
ネスプ+AG*	219	376	-156	289	76%
レグパラ	29	52	-24	33	87%
オルケディア	66	48	17	95	69%
ジールスタ	196	183	12	276	71%
リツキシマブBS	86	68	18	114	75%
アレロック	65	85	-19	83	79%
パタノール	87	117	-29	98	89%
ノウアリスト	69	73	-4	99	70%
技術収入	16	37	-21	35	46%

*正式名はダルベヘチン アルファ注シリンジ「KKF」。
製造販売元：協和キリンフロンティア株式会社 販売元：協和キリン株式会社

(億円)

主要製品名 (海外)	2020年 3Q実績	2019年 3Q実績	前年比	2020年 通期予想	進捗率
Crysvita *1 北米 EMEA	385 303 83	216 163 53	169 140 30	511	75%
Poteligeo *2	84	80	4	100	85%
Nourianz	17	—	17	26	65%
Abstral	76	83	-7	97	79%
技術収入 ベンチライズマブロイヤリティ *3	109	79	30	183	60%

*1 上市国（2020年9月末現在、南米除く）：アメリカ、カナダ、ドイツ、オランダ、ルクセンブルグ、イングランド、ウェールズ、北アイルランド、スロバキア、スウェーデン、イスラエル、UAE、チェコ、デンマーク、イタリア、日本、ノルウェー、バーレーン、スコットランド、オマーン、クウェート、カタール、ルーマニア、スロベニア

*2 上市国（2020年9月末現在）：アメリカ、ドイツ、オーストリア、ルクセンブルグ

*3 AstraZeneca社が販売するFasenraの売上ロイヤリティ(当社独自の見積もりを含む)。

各数字は協和キリン 3Q決算資料より抜粋。

2020年 3Q実績：ミャンマー・ブルワリー

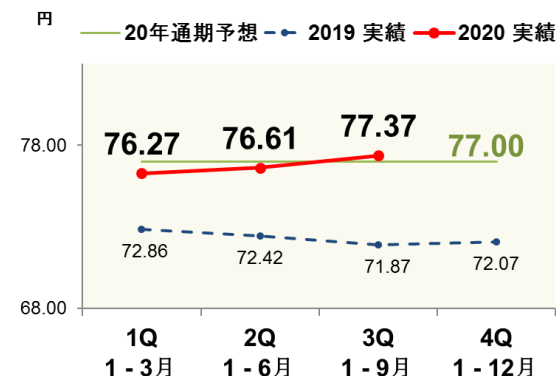
	円ベース（億円）				チャットベース（billionチャット）			
	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	242	242	-0	-0.2%	312	337	-24	-7.3%
事業利益	107	106	2	1.5%	139	147	-8	-5.7%

補 足

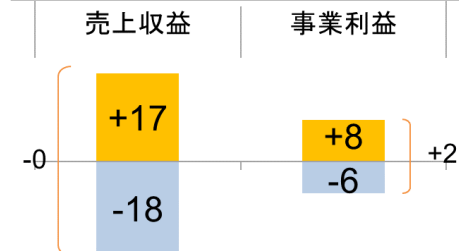
3Q業績

- ▶ ビール市場は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が本格化した4-6月に大幅に縮小したが、7-9月は前年を上回った。
- ▶ 販売数量は、前年比△3.3%となり、7-9月では前年比+12%と4-6月から大きく改善。
- ▶ 売上収益は、販売数量の減少によって減収。前年同期よりもチャット高・円安が進んだため、円ベースでの減少幅は現地通貨ベースよりも抑制。
- ▶ 事業利益は、売上収益の減少や商品構成の悪化などにより、現地通貨ベースでは減益。円ベースでは、前年同期よりもチャット高・円安が進んだため増益。

1,000 MMK (ミャンマー・チャット) * 累月平均



連結為替影響 20年3Q実績（億円）



■ 実質
■ 為替

2020年 3Q実績：コーク・ノースイースト

	円ベース(億円)			
	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	988	1,003	-15	-1.5%
事業利益	66	38	28	73.4%

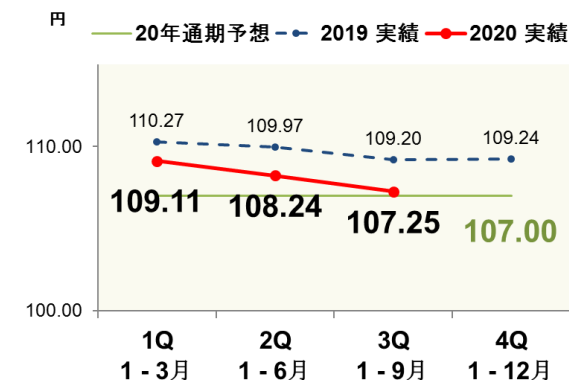
	USDベース (million \$)			
	20年3Q 実績	19年3Q 実績	増減	%
売上収益	921	918	3	0.3%
事業利益	61	35	27	76.5%

補 足

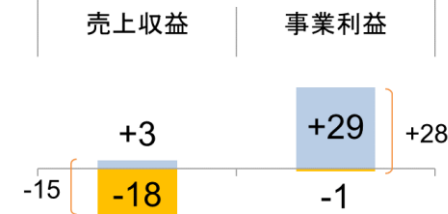
3Q業績

- ▶ 新型コロナウイルスの販売への影響は3月から顕在化し、4月上中旬に最大化、その後経済再開とともに回復している。チャンネルにより大きな差が生じており、業務用チャンネルは回復が遅れ約30%の大幅な減少が続いている。量販チャンネルは1桁後半%程度増加したと見られる。
- ▶ コーク・ノースイーストの販売数量は、1Qに増加（+8.1%）した後、新型コロナの影響が最も大きかった2Q（4-6月）に減少（△3.1%）したものの、3Q（7-9月）は業務用チャンネルの減少を量販チャンネルの増加でカバーしほぼ前年並みを維持し（△0.8%）、3Q累計で+1.0%となった。
- ▶ PMIによる業務効率化に加え、COVID-19 クライシスで変化した市場に合わせた事業活動で、販管費を削減、事業利益は前年、計画ともに上回った。

USD (米ドル) *累月平均



連結為替影響 20年3Q実績 (億円)



■ 実質
■ 為替

(参考) 通期業績予想修正 (海外事業会社 現地通貨ベース)

ライオン

	円ベース(億円)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	2,796	2,998	-202	-6.7%	2,762	34
酒類	1,681	1,715	-34	-2.0%	1,648	34
飲料	1,114	1,282	-168	-13.1%	1,114	—
事業利益	183	414	-231	-55.8%	162	21
酒類	239	451	-212	-47.0%	218	21
飲料	3	16	-13	-83.8%	3	—
本社	-58	-53	-5	—	-58	—

	豪ドルベース(million豪ドル)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	3,830	3,949	-119	-3.0%	3,784	46
酒類	2,304	2,261	43	1.9%	2,257	46
飲料	1,526	1,689	-162	-9.6%	1,526	—
事業利益	251	545	-294	-54.0%	222	29
酒類	327	593	-266	-44.9%	298	29
飲料	4	21	-18	-83.3%	4	—
本社	-80	-70	-10	—	-80	—

ミャンマー・ブルワリー

	円ベース(億円)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	290	326	-35	-10.8%	305	-14
事業利益	113	129	-15	-12.0%	113	—

	チャットベース(billionチャット)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	377	452	-75	-16.5%	396	-19
事業利益	147	179	-31	-17.6%	147	—

コーク・ノースイースト ※予想レートを108円/米ドル⇒107円/米ドルに変更

	円ベース(億円)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	1,284	1,326	-42	-3.1%	1,291	-7
事業利益	79	53	26	49.7%	60	20

	USDルベース(million \$)				20年通期 (従来予想) 修正額	
	20年通期 (修正予想)	19年通期 (実績)	対前年 増減	%		
売上収益	1,200	1,213	-13	-1.1%	1,195	5
事業利益	74	48	26	52.9%	55	19

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together